

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2018/04/05 ~ 2018/06/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587049701	科目番号 / Subject code	05870497
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (対人関係の人類学) / The Anthropology of Interpersonal Relations		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生 (クラス等) / Target students	多?化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hazama nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	多?化社会学部 (総合教育研究棟) 11階 波佐間研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2922		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月-金 9:00-17:00 (事前にメールで確認してください)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	対面的コミュニケーションに関?があり、直接観察にもとづいて日常性の構造をとらえなおすフィールドワークに魅?を感じている学生を対象とします。授業では、アフリカの狩猟採集?や牧畜?、農耕?のコミュニケーションに関する具体的な事実を理解し、?語?的・非?語?的コミュニケーションの多様性と普遍性の分岐点について根源から思考することを?指します。		
授業到達目標/Course goals	<ul style="list-style-type: none"> ・?日常生活での出来事をもとに、??のコミュニケーションの規?性を内発的に探求できる (?@、?K)。 ・異?化における対?関係の意味を多面的・分析的に吟味できる (?B、?K)。 ・コミュニケーションの?然誌記述の?法を説明できる (?I)。 		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 事例学習 (参考文献やDVDを使用する) F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	ワークへの参加状況70% 最終レポート30%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容/Preparation & Review	講義資料や予復習の課題、連絡事項などをLACS上に掲載するので、各?確認してください。		
キーワード/Key word	アフリカ、共生、会話、フィールドワーク、声		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	波佐間逸博 『牧畜世界の共生論理：カリモジョンとドドスの?族誌』京都?学学術出版会, 2015? 木村?治 (編) 『動物と出会う?T: 出会いの相互?為』ナカニシヤ出版, 2015? 木村?治 (編) 『動物と出会う?U: ?と社会の生成』ナカニシヤ出版, 2015?		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 (4/6)	オリエンテーション
第2回 (4/6)	コミュニケーションの身体モデル1 : アフリカの伝統音楽
第3回 (4/13)	コミュニケーションの身体モデル2 : 「会話の格率」は普遍的か?
第4回 (4/13)	コミュニケーションの身体モデル3 : 関連性からの離脱
第5回 (4/20)	コミュニケーションの身体モデル4 : まとめと質疑応答
第6回 (4/20)	非言語コミュニケーション1 : 感情を表現する発声は文化を越えて通じるか?
第7回 (4/27)	非言語コミュニケーション2 : 声と人称の拡散空間
第8回 (4/27)	非言語コミュニケーション3 : コール&レスポンスから反構造へ
第9回 (5/11)	非言語コミュニケーション4 : まとめと質疑応答
第10回 (5/11)	オーラリティ1 : 文字の文化と声の文化
第11回 (5/18)	オーラリティ2 : 婚資交渉におけるメタ・メッセージ
第12回 (5/18)	オーラリティ3 : 牧童が歌う存在の詩
第13回 (5/25)	オーラリティ4 : まとめと質疑応答
第14回 (5/25)	講義全体の総括
第15回 (6/1)	最終レポート作成

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2018/09/28 ~ 2018/11/16		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587049901	科目番号 / Subject code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Target students	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	文教キャンパスA&T Lab 爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日の (16:00-17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚に意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (1,2,12) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (8) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (3,4,5) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (10) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Grading	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 ボディ・ワーク・ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード / Key word	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるといふこと」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」 2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ (予習、復習、課題、グループワーク) ために時間をつかうこと (週平均3時間程度) 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」(障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks(URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かすづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがあります。協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有と学び(1)	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	感覚の共有と学び(2)	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2)	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) ワークショップのふりかえりと授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2018/09/28 ~ 2018/11/22		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587049902	科目番号 / Subject code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Target students	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamuraf@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	文教キャンパスA&T Lab 爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日の (16:00-17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚に意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (1,2,12) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (8) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (3,4,5) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (10) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 ボディ・ワーク・ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード/Key word	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるといふこと」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」 2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ (予習、復習、課題、グループワーク) ために時間をつかうこと (週平均3時間程度) 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」(障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks(URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かすづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがあります。協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有と学び(1)	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	感覚の共有と学び(2)	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2)	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) ワークショップのふりかえりと授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2018/11/27 ~ 2019/01/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587050101	科目番号 / Subject code	05870501
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (異文化対応の問題と解決策) / The Problems and Solutions for Cross-Cultural Correspondence		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	奥田 阿子 / Ako Okuda, 廣江 顕 / Akira Hiroe, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	奥田 阿子 / Ako Okuda		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	奥田 阿子 / Ako Okuda, 廣江 顕 / Akira Hiroe, 前田 裕介 / Maeda Yusuke		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生 (クラス等) / Target students			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	a-okuda nagasaki-u.ac.jp (奥田) ahiroe nagasaki-u.ac.jp (廣江) maeday nagasaki-u.ac.jp (前田) (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	各教員へメールにて連絡をし、アポイントを取ること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	異文化理解をするうえで、「衣」「食」といった自分にとって身近な話題から「宗教」や「政治」などの話題まで様々な方向から異文化について考えることができる。その中でも「言語」は、その国・地域の文化や風習と密接な関わりをもっている。この授業では、特に日本語、英語という言語を起点にし、日英の言語文化の共通点、相違点を比較検討しながら異文化について理解を深めることをねらいとしている。		
授業到達目標/Course goals	アクティブラーニングを取り入れた授業方法をとる、以下の5点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。 5) 長崎県内の課題を整理して問題点とその解決案を発表できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	授業態度 (グループディスカッションでの積極的発言等) 40% レポート 60%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	言語、文化、長崎県での文化交流、共生思想		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は採用しない。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.	各人が 1) プレゼンテーションをする 2) ディベートに参加する 3) レポートを書く 4) 授業外学習に週平均2時間程度を充てること、参考資料をきちんと読むこと。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	担当教員：奥田 授業の概要の説明 1) 国際結婚をテーマとし、アクティブラーニング型の授業を実施することを説明する。 2) 「日本の結婚制度の成立」、「欧米のキリスト教社会の結婚」、「中東、アフリカのイスラム教社会の結婚」、「アジア各国の結婚（韓国、中国、東南アジア）」の歴史と現状について情報を提供する。
第2回	担当教員：奥田 テーマとゴールを設定 1) 「全体のテーマ」国際社会と結婚について考察する。 2) 「全体のゴール」グローバル化する国際社会への対応法 3) 関心がある者どうしでのチーム作り（1チーム3?4人）
第3回	担当教員：奥田 発表準備 1) 各チームで国際結婚についてのテーマを考える（結婚、離婚、養育権、一夫多妻、宗教、恋愛など）
第4回	担当教員：奥田 発表準備：情報リサーチ (1) 1) インターネット、書籍、新聞、映画等から各自で集めた情報、あるいは外国人にインタビューした結果をチームで共有する。 2) 情報の取捨選択・分析をする。
第5回	担当教員：奥田 プレゼンテーション(1) 1) プレゼンテーションをして質疑応答をする。 2) それらを学生相互で採点する。
第6回	担当教員：奥田 プレゼンテーション(1) 1) プレゼンテーションをして質疑応答をする。 2) それらを学生相互で採点する。 3) 教員からのフィードバックとまとめ 課題：レポート
第7回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題1 1) 「異文化論」の始まり いつ頃から「異文化」という用語が使われ出したのか。その起源を辿りながら、異文化理解に必要な普遍的視点というべき視座を探る試みを行う。 2) ステレオタイプ論の氾濫?人種・マスメディア? 日常に溢れるステレオタイプ的なものの捉え方の具体例を、グループで可能な限り出し合い、そのイメージがどうやって作られ浸透してきたのかを分析し議論する。 3) 反ステレオタイプ論 Lippmann(1987)等を参考にしながらステレオタイプ論の検証を行い、固定化した観念やイメージをそれが発生した歴史的場面から問い直し、ステレオタイプを相対化する試みを行う。
第8回	担当教員：前田 長崎における文化交流のためのアクションを企画する(1)(グループワーク)
第9回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題2 1) グローバル化に伴う日本的諸問題 日本人の「国際感覚」、「概念的理解」、「共感」、「コミュニケーション・バッファー」といった用語をキーワードとして、グローバル化に伴う一般の日本人にありがちな陥穽について議論する。 2) 異文化理解における「共感」の位置付け Rogers(1984)やDamen(1987)を参考にしながら、異文化理解における「共感」を発展的に捉える試みを行う。 3) 異文化間における文化的配慮とその意義 異文化間における解釈等の違いから生じる摩擦を回避する智慧としてのバッファーを、具体的事例に当たりながら、考察する契機としたい。
第10回	担当教員：前田 長崎における文化交流のためのアクションを企画する(2)(グループワーク)

第11回	<p>担当教員：廣江 異文化理解の諸問題3</p> <p>1)身近な異文化：帰国子女・外国人留学生・ALTをめぐって 視点を变えて、日本社会及びその文化が異文化となっている帰国子女・外国人留学生・ALTを取り巻く現状や適応に焦点を当てる。</p> <p>2)あるALTの主張 日本人と言わば「国際結婚」した熊本県在住の元ALTの手記を読み、日本社会で暮らすアメリカ人の本音を考察する。</p> <p>3)Lost in Translation視聴 日本を異文化と捉えるアメリカ人の苦悩を映画化した作品を鑑賞し、日本社会あるいは日本文化のどういった点が異文化になり得るのかを考察し議論する。</p>
第12回	<p>担当教員：前田 長崎における文化交流のためのアクションをプレゼンする(1)(グループワーク)</p>
第13回	<p>担当教員：廣江 異文化理解を超えて</p> <p>1) Lost in Translation視聴 2) Lost in Translation視聴後、グループ・ディスカッションを行い、発表を行う。</p>
第14回	<p>担当教員：前田 長崎における文化交流のためのアクションをブラッシュアップする(1)(グループワーク)</p>
第15回	<p>担当教員：前田 授業のまとめ</p>